

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

| | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 事業名 一般国道153号 豊田西バイパス | 事業区分 一般国道 | 事業主体 国土交通省 中部地方整備局 |
| 起終点 自：愛知県名古屋市天白区天白町 至：愛知県豊田市東新町 | 延長 13.3km | |
| 事業概要 一般国道153号は、愛知県名古屋市東区を起点とし、みよし市及び豊田市などの主要都市を経て長野県塩尻市に至る延長約220kmの名古屋都市圏と長野県中信地域とを結ぶ幹線道路です。 本事業の一般国道153号豊田西バイパスは、愛知県名古屋市天白区天白町から愛知県豊田市東新町に至る延長約13.3kmのバイパスであり、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、地域連携の支援を主な目的として事業を推進しています。 | | |
| S42年度事業化 | S41年度～S47年度 都市計画決定 | S46年度用地着手 |
| S48年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 316億円 | 事業進捗率 |
| | 75% | 供用済延長 |
| | | 0.0km (6車線区間) |
| 計画交通量 78,200台/日 | | |
| 費用対効果 分析結果 | B/C (事業全体) 4.5 (残事業) 15.1 | 総費用 (事業費/維持管理費) 93/842億円 52/746億円 41/96億円 |
| | 総便益 (走行時間短縮便益/走行経費減少便益/交通事故減少便益) 1,401/3,825億円 1,379/3,773億円 22/39億円 0.05/13億円 | 基準年 平成23年 |
| 感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C= 4.1~ 5.0(交通量 ±10%) 事業費 : B/C= 4.5~ 4.6(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C= 4.3~ 4.8(事業期間±20%) | | |
| (残事業) 交通量 : B/C=13.6~16.6(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=14.3~16.0(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=13.9~16.1(事業期間±20%) | | |
| 事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度の改善が期待される。 ・利便性の向上が期待できるバス路線(名鉄バス)が存在する。 ②都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。 ③国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ④災害への備え ・第一次緊急輸送路として位置づけられている。 ⑤地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑥生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 豊田市幹線道路整備促進協議会より早期整備要望を受けている。 知事の意見： 愛知県知事： 1 対応方針(原案)案に対して異議はありません。 2 豊田市中心部へ集中する交通を分散・迂回させる豊田西バイパスの早期整備を図っていただきたい。 3 なお、事業実施にあたりましては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。 | | |

名古屋市長：

一般国道153号豊田西バイパスは、名古屋都市圏と豊田都市圏を結ぶ重要な道路です。
名古屋市と豊田市間のアクセス性の向上と地域連携の強化に向けて、事業の継続をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・名古屋都市圏と豊田都市圏を結ぶ豊田西バイパスで交通混雑
- ・豊田西バイパス及び並行する周辺路線で死傷事故率の高い区間が多数存在
- ・名古屋都市圏と豊田都市圏を結んだ増加する交通量を効果的に処理するネットワークが必要

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は75%、用地取得率は100%。(平成22年度末)
- ・平成18年度に全線暫定4車線供用済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・国道155号豊田南バイパスと接続する東新地区(L=1.0km)は、平成25年度の立体化を予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・擁壁構造を見直すことにより、約0.3億円のコスト縮減。
- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

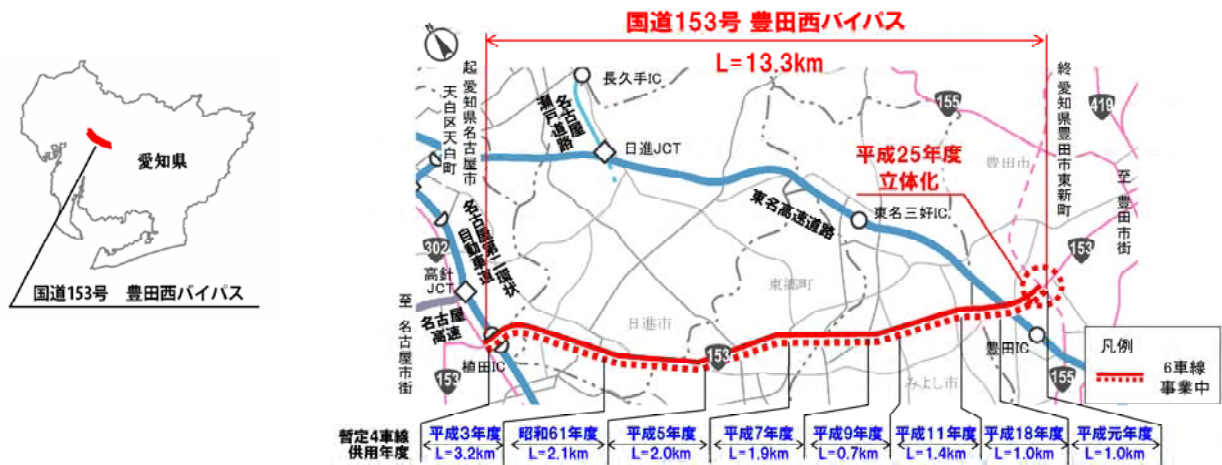
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。